

あ ず や ま な か  
飯能市阿須山中でいま起きていること

入間から青梅に続く加治丘陵中間地に位置する広葉樹林帯の里山。

土地開発公社の塩漬け所有地処分と、市長公約の「メガソーラー誘致」実現の一挙両得？

基本計画を否定

- ◎森林と人とのより豊かな関係を築きつつ、自然と都市機能が調和するまち
- ◎自然との共存・共生はまちづくりの基本。
- ◎「ホッケーのまち飯能」。小学生から大学生、社会人までの各チームが大会で活躍。競技団体と連携し、競技の普及に努める。

取得目的を変更

- ◎前市長時代から用途は自然公園を確認。
- ◎議会でも自然公園化前提で議論。
- ◎現市長が「民間活力活用」「山林を新たな産業のフィールドに」と転換。
- ◎議会多数派議員が転換を容認。以後、反対派議員に対する「動議」が恒常化。

選考過程非公開

- ◎審査委員は全員が庁内部課長。所属・氏名は非開示。
- ◎審査の評価手順、点数、応募者情報等すべて非開示。
- ◎「地方創生」評価の理由も抽象的。議会答弁では「目標はこれから設定」。

事業者を後日すり替え

- ◎基本協定書の「協力事業者」条項で発電設備設置事業の「継承」者設定を明記。
- ◎公募で選定した「最優秀者」団体に事業遂行の資質がないとして担保を設定。
- ◎公選そのものを反故にし、その説明責任も果たしていない。
- ◎すり替え事業者は一切の公的チェック抜きに選定団体の権限・地位を引き継ぐ。

各地でメガソーラー建設が環境破壊を引き起こしています。飯能市の場合は FIT 認定業者ではなく市が主体となって推進している珍しい事例です。それだけに地方自治体職員や議会議員の資質が問われていると考え、ここにご紹介いたします。 2020/10/8

<作成> ときがわ・自治研究会 篠原陽子  
shinohara\_yoko@nifty.com  
090-4438-4104

市主導の森林破壊

- ◎16ヘクタール以上の大規模開発。
- ◎8割は北向き斜面で太陽光発電には不向きで危険性が伴う。
- ◎林地開発許可のほか急傾斜地崩壊区域内、砂防指定地での行為許可も必要。
- ◎希少種の動植物棲息が確認されている

採用疑惑のサッカー

- ◎市内では当該団体のみがクラブを運営。リスクが大きく運営コストも不透明。
- ◎流入人口や移住等増大に結び付くという明確な根拠は示されていない。
- ◎直近3年の決算提示という要件が満たせず審査では団体の経営健全性 0 点。
- ◎団体の顧問は地元出身の内沼博史県議。現在、県議会環境農林委員長。

グラウンド整備の怪

- ◎計画地には上下水道敷設なし。
- ◎発電施設の調整池がグラウンド。観客席、救護室更衣室等の建築予定もない。
- ◎年間利用可能日数が限定され、合理的訓練スケジュールは組めない。
- ◎県立奥武蔵自然公園の普通地に含まれている「市民の森」。その破壊は「青少年の健全育成」主旨に反する。
- ◎市内廃校のグラウンド借用などなら地元と相互応援関係で「地方創生」に寄与。

